



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第5巻第  
12号)

AUTHOR(S):

---

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第5巻第12号). 泌尿器科紀要 1959, 5(12): 1262-1262

ISSUE DATE:

1959-12

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/111865>

RIGHT:

## 編 集 後 記

最近の日本学術会議において「科学者生活白書」が公表せられて、学者の経済生活がいかに窮乏しているかが世間の注目を浴びたが、今頃になって問題になるのは遅過ぎる位だ。学者もさる事ながら勤務医の待遇も何とかならぬであろうか。厚生省が近頃国公立病院及び民間病院の勤務医給与を調査したところによると、先ず国公社の初任給は最高は国鉄の18,900円、最低は造幣の12,000円である。医師になるための年数、修業、仕事の内容等を考えると決して良い待遇とは云えない。次に公務員医師と民間勤務医との給与比較を見ると、院長で公務員5万5千円、民間7万7千円、医長で3万5千円と4万5千円、医員で2万2千円と2万9千円、これを平均すると公務員3万円、民間4万円となる。これによると民間にても決して高いとは云えないが、公務員にては更に1万円程度低い。医師は単なる公務員や俸給者と同一に視られるべきではなく、別の基準によつて待遇せられるべきである。大学、インターン、国家試験を終えてから半年間程医局に居り、次で地方の公立病院に赴任する。そこで3年間程勤務する、その間に子供が2人程出来る。俸給は生活を維持するのにギリギリである。大学研究室に帰りたいが、その研究期間には4、5年を必要とし、その間の生計を立てるべき余裕は全くない。未来を思うと途方に暮れざるを得ない。希望を以て医学修業の道に入つたのに、このような失望に立ち到つた次第である。これは医師だけではなく、国民医療にとつて極めて重大事である。どうしたらよいか。勤務医が本当に立ち上らねばならぬ。勤務医や学者の中にも比較的ぬくぬくとして居て、こんな問題には冷淡な者やこんな事を云うのを卑しいとする者もあろうが、それは間違っている。そんな人達も一緒に考えるべきだ。

開業医も近頃は楽ではないと聞いているが開業医よりも勤務医が著しく貧困であると言う状態があるとすれば、それは間違っている。医者である以上は、たとえ勤務医であつても或程度の余裕ある待遇を受けねばならぬ。病院が何とか経営しているのは医師の数を少くし、給与を低くしているためではなからうか。それには保険経済の事もあろうが、結局は政治に連なるものであろう。そこでロッキード1機が5億円という事を思うことになる(昭和34年12月)

### 購 読 要 項

1. 発行は毎月(年12回)とする。年間購読者を以て会員とする。
2. 会員は年間料金 1,000円を前納する。1冊料金100円、払込みは振替口座番号京都 4772番 泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名(フリガナ)、住所(雑誌郵送先)、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入の上編集部宛。

### 投 稿 内 規

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他。寄稿者は年間購読者に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い。片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。附表、附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名：誌名、巻数：頁数、年次。  
例、中野：泌尿紀要、1：110、昭30。Lazarus, J. A. : J. Urol., 45 : 527, 1941.
5. 300語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を付け、なるべくタイプライターを用いること。希望の場合は当編集部にて翻訳します。抄録用の原稿を送ること。翻訳の実費は申受く。
6. 掲載料は4頁迄毎頁 500円、それ以上の頁、アート頁、図表、写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈。それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は編集者が行うが希望により著者校正とする。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院 京都大学病院 泌尿器科紀要編集部。